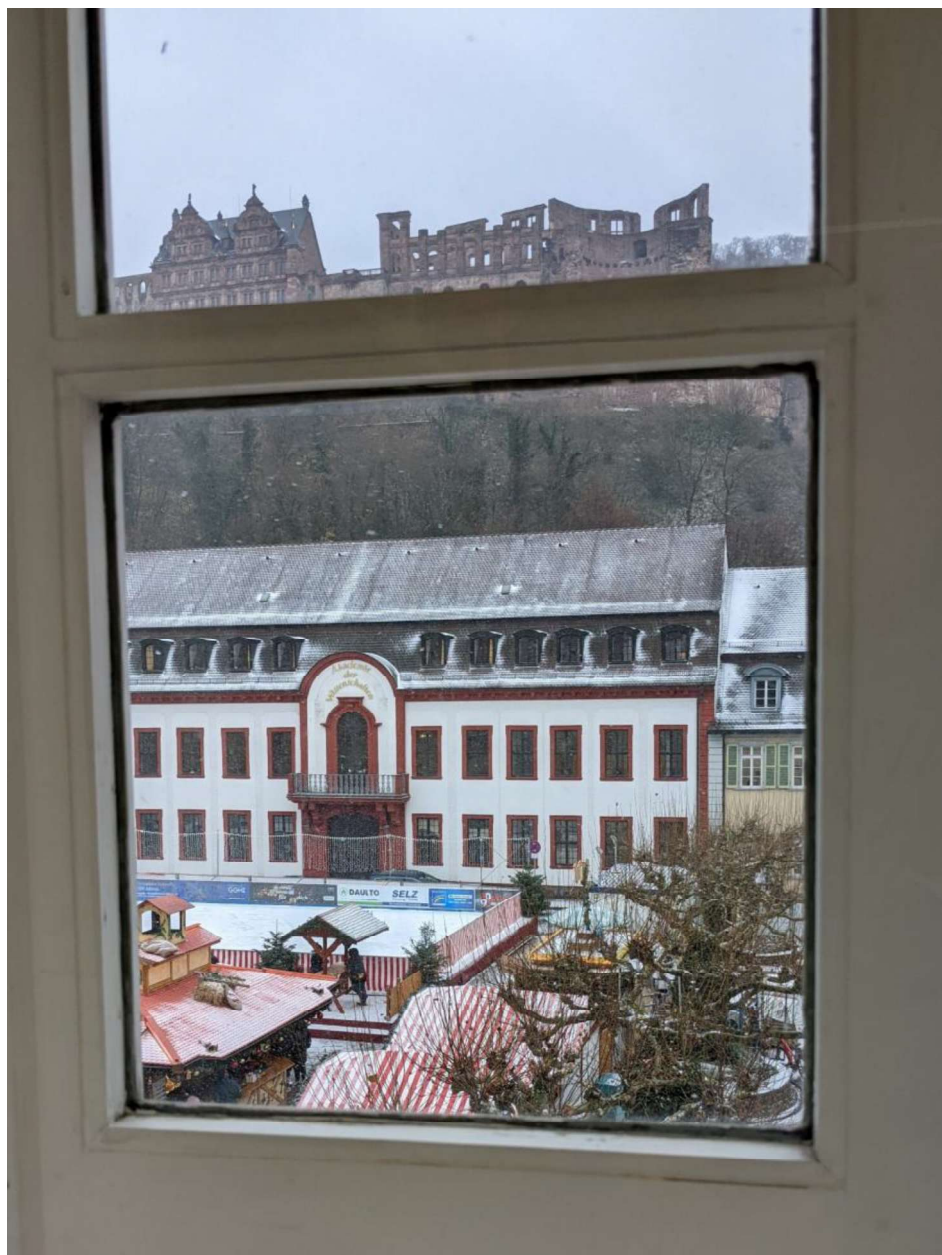


Fenestra

京大西洋史学報



第9号 (2025年4月)

京都大学大学院文学研究科
西洋史研究室

フェネストラ

京大西洋史学報

第9号目次

論説・動向

岸本廣大

貨幣からアカイア連邦を再考する——ヘレニズム時代の経済・貨幣史のための予備的
考察—— 1

図師宣忠

中世への「窓」としての異端審問記録 9

谷口良生

議員と勲章——フランス第三共和政前期（1870-1914年）におけるレジオン・ドヌール
叙勲議員—— 27

史料翻訳

林祐一郎

アンリ・トラン「ドイツ国内のフランスに起源を持つ改革派諸教会への呼びかけ」
..... 40

新刊紹介

三坂巧

踊共二『非暴力主義の誕生——武器を捨てた宗教改革』 48

西洋史研究室の現在

時代別演習と専任教員の講義 52

大学院生の研究 59

編集後記 65

《表紙の写真》：ドイツ文学研究科図書館の窓（ドイツ・ハイデルベルク）

本写真が撮影されたハイデルベルク大学ドイツ文学研究科の図書館は、18 世紀初頭にプファルツ選帝侯の枢密顧問官であった人物によって建てられた「ボワスレ宮殿 (Palais Boisserée)」内にある。その名は、1789 年にボワスレ兄弟が大学に通うため、この建物の上階を借り受けたことに由来する。ボワスレ兄弟は、1804 年のフランス軍による故郷ケルンの占領に伴い、多くの修道院が破壊される中、教会美術品の収集を開始した。そして、1810 年から 1819 年にかけて、ドイツ古典絵画の文化的重要性を広めるべくギャラリーを開設し、多くの政治的・文化的な著名人を惹きつけた。1815 年には、オーストリア皇帝、ロシア皇帝、プロイセン王をはじめとする要人がこの地に集い、ナポレオン戦争の勝利を祝ったという。また、ゲーテの有名な詩「Gingo biloba」も、本宮殿の庭にそびえるイチョウの木から着想を得たものだといえられている。このような歴史的遺産を象徴するかたちで、1974 年に本宮殿はドイツ文学研究科の拠点として正式に設置された。12 月のある日、図書館で勉強していると、自習室の窓から、雪の降りしきるハイデルベルク城と、活気あふれるクリスマスマーケットが見えた。観光客の雑踏の中に、長い歴史と学問の伝統が息づくこの街で、これからどのような文化が育まれていくのだろうか。

編集後記

2025年4月現在、世上を賑わせているニュースは、ウクライナ、ガザでの戦争を上書きするように、米価（物価）高騰、ミャンマーでの大地震、「トランプ関税」、大阪万博です。能登のことはほんとうに話題にならなくなってしまいました。毎年この時期に、定点観測のように時事を記録していますが、あれほど人々の頭を一杯にしたコロナ対応は遠い昔のようですし、どうなることかとおそろおそろ触っていたAIも（良し悪しはさておいて）日常に溶け込んでしまいました。私たちが関心を寄せる過去に生きた人々も、このように次々に事態が出来しては過ぎ去るの繰り返しを感じていたのでしょうか。それとも、時間の加速化は「近代」の特徴なのでしょうか。今号にも興味深い研究の種が随所にちりばめられており、きっとさまざまな方々の心に響く内容だと思います。今号の編集には坂野水咲さん、藤本俊哉さん、三坂巧さんが携わってくれました。御礼申し上げます。（金澤周作）

2025年4月30日発行 非売品

『フェネストラ——京大西洋史学報——』（第9号）

発行者 京都大学大学院文学研究科西洋史研究室

京都市左京区吉田本町

京都大学大学院文学研究科西洋史研究室

電話 075-753-2791